

V14a 学術情報ネットワーク SINET3 と光結合 VLBI

川口則幸、河野裕介、小山友明（国立天文台）高羽 浩（岐阜大）、藤沢健太（山口大）

国立情報学研究所が2001年から進めてきた「スーパー SINET 計画」は、2007年から「SINET3」計画として新たにスタートすることになった。スーパー SINET 計画における研究テーマの一つとして取り上げられた光結合型電波干渉計計画（光結合 VLBI）は、首都圏のネットワークから全国的な規模に拡大し（2006年春天文学会）、技術試験観測、科学観測がこれまでに実施され、本学会でも報告がなされている（2007年春学会）。スーパー SINET 計画では、研究領域をある程度特定し超高速通信の学術利用を促進する意味で大きな役割を果たした。しかし、現在では情報基盤としての超高速通信回線の必要性、重要性が高まり、その要請により SINET3 計画では学術情報基盤の高速化に軸足を置いている。光結合 VLBI 観測チームにおいても情報基盤としての通信網を有効利用する観点から

（1）GMPLS によるオンデマンド接続により通信基盤の有効利用を図る

（2）回線共用装置により、通信帯域の共用を汎用ユーザー

の研究開発を進めている。本講演では、ユーザから見た新しい学術情報ネットワーク SINET3 の現状と、その上に展開されている光結合 VLBI 観測網及び観測の現状について報告する。